

畫が進められてもいざとなつたら漢口の如く臺なしにされてしまふ。平素唯、電話を以てイエス、ノーと云ふ様な程度で支那人との交渉を片づけてゐる。向ふの家庭に遊びに出かけて行くでもなければ、向ふからも來ない。日支聯合の宴會など開いても、飯を食つてしまへば、唯お互に黙つて居るばかりで、その名刺の交換位はやるにしても、情味ある話はない。それには言葉の關係などありません。食後に玉突をする場合など、支那人は支那人、日本人は日本人と突くだけである。支那人は面白くないからサツサとかへつて行つてしまふ。斯んなことでは日本は支那に何十年やつた所が、紡績事業ばかりでなく石炭の事業にしても本當の發展を見ることは望みがない。要は日本人は支那人を低く見ず、之をよろしく對等に見て、家庭的にも交はり親しみの心を以て見てやるやうにする。支那人には洵に一種の面白味があり嗜みのある民族である。そしてよくその心に裕りのある人間であると云ふことが解つて來るといふ心易くなり、お互に「明日家に來なさい、お茶でも喫みませう」とか「明日龍華

の桃を見に一緒に行つて見やうちやありませぬか」と云ふ様な氣輕な氣分になるのであります。今日のところまださう云ふ氣分は全然ないわけでもないが、甚だ少ないやうである。中には、支那へ轉勤させられても仕方なしに支那に行くものが多い。それより倫敦とか紐育とかに行つた方が望ましい。歸つて來れば本店の重役にもなれる。支那には幾ら永く勤めて居ても重役には、殆んどして呉れない。香ばしくないからなるべく速く支那を引揚げることにしやうと云ふ氣分になるのは當然の事であります。かやうなことが現實にあるに拘らず、支那の時局がやかましくなり事件でも起ると我社は支那に莫大な資本を投じて居るが、甚だ不安で叶はぬ。實に當局は怪しからぬ領事館は怪しからぬと云ふやうなことがすぐ出るのである。當局も當局ではあるがしかし、かやうなことを言ひ出す前に、各自のやり方不斷の考へに就いて顧みて見るの必要がありはしないか。これは餘り支那の方に捉はれ過ぎた考へといはるゝかも知りませぬが、私がこゝで申し上げます卑見は、殆んど地球の中心まで貫いて居る信念と、確

信を以てお話しするわけでありませぬ。外少耳の痛い方があるかも知れませぬが、其邊は御諒承を願ひたい。こゝには餘り大きな聲で申し上げられぬかも知れぬが日本は今までのやうなやり方で、支那を見てゐるならば、今少し行詰つて、とことんの處まで行き、愈懲り懲りするところまで行くがよろしいと云ふ位にまで感じて居る。と云ふのは支那人の方の出かた一つで、今後は日本は長江の俎上の上におかれて居る。支那が今日そのメートルを上げてゐると云ふ意味で申すのではないが、從來の如き日本人の考へ態度であつては日本の爲めにならぬ。これで大冶の鑛鐵でもいつ何時來なくなり三菱や川崎造船所にハンマーの音が聞こえなくなる時が來るかも知れぬ。或は又九江あたりの麻の輸出がいつ止まる様になるか判らぬ。同時に日本人の支那に於ける地盤と、その事業がもつとひどく破壊され、根柢から臺なしにされる時が來るかそこは豫想が出来ないのであります。

そこまで思ひつめて考へて見ますと支那の問題は實に重大な日本の運命を左右して

ゐる性質を有つてゐるものであつて、日本の文部省あたりでも教育上、餘程考へてゐる貫はなければならぬ問題がどつきりあります。日本の教育はたゞ日本だけの立場から論理道德を説き忠孝の道を教へてゐる。それから日本の皇室中心主義の力説、之も結構であります。けれども今後の日本としては少なくとも東洋の天地を立場として大きな態度の教育を施さなければならぬ。今日はむやみに國際的とか、世界的とか云ひまして、先進國の真似に汲々としてゐて、歐米的の型を本位とし東洋的が薄くなり、精神が抜けつゝあるやうに思はれてならぬ。支那の實情を知る方法が立つてゐない。漢文にしてもどうも現代に觸れてゐないやうである。又偶に支那に修學旅行に出かける者があつても、まるで二十日鼠のやうにクルクル大急ぎで廻つて來るだけで、後には殆んど大事な印象をも得ない。とかく教育方面には最も進んでゐなくてはならぬはずであるに、寒心に堪へない事のみが多い。文部省はそれでおさまつてゐるところへ、一般國民からは大した要求らしい要求もしない。實業家の方面から、文部省へ斯ふも

して貰らひたいと云ふ要求も出てゐない。唯當面の幾億の投資に對して利益を生み出さなければならぬと云ふことだけに汲々としてゐるもののやうに見える。資本家の擁護も固より必要でありませうし引揚げた居留民の前後策の問題も當面の問題としては大事な性質を持つてゐるが、更に又大所、高所から達觀して、邦人の將來の問題に付いても、朝野を擧げて之を考へると云ふ所まで進まなければならぬ。吾人は今少しく行き詰る所まで行き詰り、全部臺なしにされてしまつた揚句、始めて眼が醒めるといふのでは困る。いかに島國的とは云へ、日本人が向ふの壁に頭をブチ付けて見なければ支那が分らないでも困る。日本人は支那が、まだ／＼遠いと呑氣に考へてゐるうちに、何時のまにか種々な脅威が来る。それも支那人は日本を畏れて居るやうに思つてゐるかも知れないが、全く眼中に置いて居ないのである。支那は支那で進路を行く。日本が眼中に置かれてゐるつもりで日本人がゐるから關稅の問題でも何でも腹が立つことが多くなる。支那を下にみさげてゐては、幾ら支那と交渉しても圓滿に行くわ

けがない。國民外交など云つても、こちらのみが高い積りでゐるから、心持ちに於ても巧く行かないのも道理であると思ふ。

幾ら申上げても話し度いことはつきませぬが、私はなるだけ支那趣味の一方に偏しない程度に凡ゆる多くの方面に興味を有ち、そして凡ゆる問題に首を突込んで、一つでも多くの支那社會の事物の真相を突止めて見たいと思つてゐる。今日は趣味の柔かい情緒の漫談に時間がなくて、タッチすることが出来なかつたのは残念であります。

十五 國際人情の理解

七十六 汎亞細亞主義を唱ふ

近來亞細亞主義を唱ふことが一種の流行の如くなつて來たが、これは必ずしも排斥すべきことではない。歸する所は印度、ベルシャ、支那等世界的國際關係より見るも、又その民族の實力より見るも、未だ遠く及ばざるものを相手とし、これと同格になり又は是等の間に介在して、其の主動者となつて、聯盟組織を實現せんとするの意と解される。

若し此の推定に誤りなくば、斯くの如き有意義の事柄に對して、我が日本國民は特に之に應ずる丈の精神的準備と相當の經驗を要するのである。

日本では、これまで國際的旅行の趣味が普及されて居らぬ。海外の事情、殊に亞細

亞の各地に關する事情は殆んど國民とは没交渉の有様で、識者も亦十分に紹介して居らず、従つて國民の注ぐ力も此の方面に對しては甚だ薄く、彼の歐洲航路や亞米利加航路の汽船は、航行者滿載の有様であるに反し、亞細亞方面の汽船と來ては殆んど空室が多いのである。

無論、産業、經濟、其の他交通上の點から見て時期尙早とも云へるけれど、現在の實狀は如上の結論をせねばならぬ状態にある。殊に日本の出版物——單行、雜誌、新聞等に於ても、アジア各方面の地理的事情、或は産業の實際調査其の他趣味の方面に關し何れの地方に如何なる興味ある材料が潜在するか、點に就いて紹介されてゐる者は少ない。偶々シヤム、アフガニスタン等から來遊者があつても日本人からは何等の注意を拂はれては居らぬ。當局者としても冷淡極まる事實の甚だ多いのは、遺憾に堪へぬ事である。

國民の自尊心は、何れの國も一種のプライドを有し他國人を排斥するの結果を見る

は止むを得ぬ事であるが、我國民が支那、印度人は勿論、歐米人に對し寧ろ甚だ居心地の悪い印象を與へ、而かも何人も之を失當だとも、失禮だとも考へる者が無い。此は事甚だ小なるに似て居るけれど平素其の點に就ての國民的觀念心懸の足りないことが判る。同時に國際的發展の上に大なる障礙となる。せめて通常人として當然持つべき禮讓は心懸け外部に發展する精神的自覺を培養すべく一層の努力を必要とするのである。この豫備的努力なくしてアジアの國際的人情に基く理解を企つる如きは、砂上に樓閣を築くに等しく、却て自ら其の事を破壊すると同様である。

七十七 弱者の叫びを止めよ

歐洲戰爭當時から、印度人が日本を信頼せんとする聲が強烈となり、他方に於てペルシャ、アフガニスタン等が日本を信頼せんとする希望の閃きが著るしくなつて來たことは明かである。其他表面にては日本の世界的地位に對する尊敬から、多少日本に

心を傾けてゐる民族や國家もあるけれど、然しこれ長くアジアに國を成し、生活を爲す者が平素の親しみ又は其の麗はしき人情から、親善の道程に進むの態度を示すものであるならば、甚だ歡ぶべき現象である。けれど、亞米利加から排日の仕打ちを受けた爲め、曩に同じ運命にあつた是等弱者と共に、排斥の暴惡を叫ばんが爲めであるならば、甚だ面白くない。吾人は今日の場合かゝる弱者の叫びを揚げたくない。况んやアジア諸民族の内部の人情、風俗、地理の理解に就き、殆ど何等の準備なき現在に於て、斯の如き火の手を擧ぐるは甚だ無謀ではあるまいか、徐ろに先づ親交を結び之に處するだけの準備にとりかゝるが順序であると思ふ。

斯の如き遠大深長の事柄に對しては、之を貴衆兩院に問ふも思ふやうにゆかぬ事は初めから明かである。問ふだけ無駄であるだらう。出来るならば矢張り民間の各智識階級が中心となつて、茲に輿論を喚起するが必要である。處が今日の程度では、まだ新聞にさへその風潮が表はれず、學校の教員は文部省の教授細目に囚はれて、高處大

處から論ずる者も餘り見當らぬ。其他社會の各方面に就て見るも、自己擁護にこれ日も足らぬといふやうに見える。今日の場合は隱忍自重して、それが爲め捨石となる覺悟を持たなくてはならぬ。

近來日本アルプス初め種々の國內旅行が盛んになつてきた。又滿鮮支那の旅行も一二年前から盛んになつて來た。然しながら支那人の趣味嗜好、購買力、又は賣込方法及土着民の人情、風俗、習慣等に切り込んで、研究する者は甚だ少い。日本の旅行者の中で一流と見らるべき紳士でも時に支那人を相手にしてゐる暇がないなどと放言する者もある。偶々充分暇もあり、金もある人の旅行を見てみても一流のホテルから一等の汽船に乗り、乗り物の出迎へを得て毎夜歡迎會上でテーブルスピーチを聞く位が關の山である。何れも支那人の實生活の中に、自ら飛び込んで研究したといふ話は殆ど聞くを得ない。

支那在住の日本人はどうか、無論大部分は共喰ひ生活で支那人家庭を訪問し

平素の懇親を結ばうとするよりも、碁や撞球に熱中してゐる者が普通である。大體多く支那に在るも支那人に懸り合ふのは面倒と云ふやうな氣持であるものが一般である。無論これは何時までも支那に在住するのは、自己立身の妨げとなると考へ自然この態度に出づるやうになるのかも知れぬ。この點に對しては銀行、會社等の反省を促した。支那以外の旅行者は極めて寥々たるもので、其の風俗、人情は勿論甚だしきは其の首都さへも知らざるに、地圖を開くことさへせず、我關せず焉の態度にあるものが現在の有様である。それゆゑ亞細亞の諸方面に日本より旅行者を出すなどは、現在の状態では容易でない。行くべき希望者は多少あるだらうが、旅費其の他の援助者も少いやうである。最近外務省からベルシヤ方面へ官吏を派遣したがこれは從來餘り例なかつた事である。

一體アジアの旅行どころか現在日本人の氣持を忌憚なく言へば、我々は海國男兒なり、四面環海の民なりなどと、頗る強さうな言を吐くが、其の實二百十日の忌日を避

けたいとか、遠州灘を厭ふとか、玄海灘は暴れるとか心の奥に甚だ強からぬ不體裁の考が潜んでゐる。殊に船を恐れるのは想像以上であり學校教育や家庭教育に於ても船に親ましむる考が、殆んど閉却されてゐるのは遺憾である。

斯く見來れば、アジア旅行者を出す以前に於て、先づ船に親しましむることが先決問題となるのである。

七十八 アジア族相互の理解

アジア各方面の民族が我々日本人の氣持を理解するのは前途遼遠である。由來日本人は動もすれば外人に對しては尊大で、輕蔑の風がある。日本民族として彼等に居心地よい氣持を與へてゐたかどうか。外人の智識階級者はどうかして日本人の衣食住の狀態を知りたいと思ふてゐる。奥の茶の間の周圍は日本民族生活中、最も趣きの多い處で、外人の何れも見たがつてゐる處である。處が之を開放したことを耳にするのは

甚だ稀である。殆んど堅く門戸を鎖して開放しない。一部開放するも或程度迄で拒絶する。中には歐米滯在中に非常に世話になつた向に對してさへ、態よく謝絶してゐる。

歐米人に對してさへ斯の如くである。支那人其他に對しては更に一層甚だしい。支那學生などに對しては假令空室があつても支那人なるの故を以て貸さない。他は推して知るべきである。こんな有様では亞細亞民族間の了解も容易でない。ペルシヤ、アフガニスタン、印度人等に對しても同様又は更に至難であると思ふ。云はざるを得ない。斯く云へば前途に光明がないやうに見ゆるが、これは日本人各自の心持が箱庭式であるのが最大悪因であると思ふ。猛進一番衆と與に樂しむの大度量を切望する。

今後アジアに於ける國際方面の理解には、全然局面を展開して從來の心の持ち方を一變するの決心と努力が必要である。

北米の排日問題に對し、或者は之を米國議會の一の政策に過ぎず米國人多數の輿論は、日本に對し多大の同情を寄せつゝあり、などと盛んに言ひ觸らす者もあるが、こ

れは事實の真相を解せぬ觀察である。日本人を落膽せしめぬ言分である。勿論一部米人中には親日者もあり、斯く考へつゝある者もあらん。併し米國の眞意は日本人の入國を避けて貰いたいのが事實である。日本人の發展を阻害するのが目的ではない。米國自營の根本問題から出發して、ドイツ人にも、スカンデナビア人にも、或はイタリヤ人にも又はバルカン半島人に對しても、極めて制限せる少數人を入國せしむることに改革したものであつて獨り東洋人のみを排斥する譯ではない。

實際に於て米國內に在る黒人の人口繁殖は、米人に二倍するの有様で、米人憂慮の眞諦は此にある。今後は純粹の米人血液にて徹頭徹尾米國百年の計を樹つるに吸々としてゐるのである。

世界戦争の結果米國は功就り名遂げ實力上世界無比の國となつた。爾今理想的に自營の途に上るを望んでゐる。それを實現するには或比例以上は外人を排斥せねばならぬこの深き根柢の下に、日本人をも排斥することゝなつた。此の深き根柢に依つて爲

されたる排日法に對し、輿論を以て撤回を計るが如きは思ひもよらぬ企てである。

然るに日本人で、泣事のやうなことを繰返して、之に代る道を講ずるのが、國家自營の必然的働きであることに氣附かない。其の方策はアジアに全力を注ぐだけでも充分償はるゝと確信する。

七十九 アジア旅行の獎勵

一坪何百圓、何千圓といふ莫大の金を拂ひ、満足なる別莊を造ることは愉快ならんも、時には東海道線の延長なる神戸上海及長崎上海の連絡船を利用し、或は又其の延長とも見るべき日清汽船の二三千噸の小蒸汽を利用して、揚子江一千哩の流れを上流方面に溯るの快擧を企て、或は勃海灣上に心膽を練り、或は夏は北緯五十度の樺太方面に周遊の樂しみを計るは、樂しみと共に國外發展の氣分を養ふ上に多大の功献のあること勿論である。又斯様に八釜敷云はず單なる旅行趣味よりするも天空快濶の境に

身をさらし家族友人もろ共に其の樂しみを分つことも面白い。斯の如く小は一身の道樂から大は國際的發展の準備として、十日、二十日、一ヶ月の旅行を以て、幾分にて大陸發展に資するは、現下の必要事でありアジア大陸に親しみを持つ導火線となるのである。之に依つて各地の風俗、人情、經濟、交通、物産取引等の實情も自ら親しみつゝ調査が出来て自他共に益すること甚大であると思ふ。更に之を南洋印度等に及ぼし、又近時石油問題を惹起し英露以外なれば何れの國にも提供すると聲明せるベルシヤの如き地方に及ぼし旅行するとせば、これ眞に國力發展の爲め頗る有意義な旅である。

亞細亞南部の富源は其の囊口を開いて旅行家を待ちつゝある。獨りアジア南部のみならず、西比利亞バイカル地方其他に對しても、旅行家を待てる富源は殆ど無限である。吾人は日本アルプスの延長として揚子江、泰山、萬里の長城、或は又ヒマラヤ山、アルタイ山等に其の實狀を探る人の續出を切望する。更に又日本の中樞地にアジ

ア會館の如きを建築し、アジアに關する全智識の叢淵たらしめ、會合にも便ならしめたいのである。

何と言ふても今後の活動は吾人海外發展を目的とする有爲の士の心掛けと、決心努力の如何にあると思ふ、こは米國の排日より思ひ附きし論者の叫びといふやうな、情ない事ではなく、意味深長なる國際的人情の上に理解を進むる一の道程として、吾人は茲に平素の持論を述べて、有志諸賢の教示を仰ぎたいのである。幸に共鳴者を得るならば望外の幸である。

十六 海外思想の教養

八十 振はざる海外思想の鼓吹

鼓吹しなくとも自然に盛になる時機を待てといふ議論が出るならともかく、日本民族の海外発展の宣傳鼓吹は、一日も忽せにしておいてはならぬ問題である。問題を煎じつむれば人口問題や物價騰貴の問題に歸するのであるが、理窟はさておき現實の問題として、吾人は生きる爲めに是非とも海外に進展して行くことをモットーとしなくてはならぬ。

二十五年ばかりも経つと日本の人口は、一億萬を越ゆるといふ恐ろしい脅威の下に今日安閑としてこの狭い島國に蝸牛角上の生活難にやきもきしてゐられようか。今日の社會で思想の誘導宣傳の上に一番必要なことは、活動寫眞の利用といふことにある

のであるが、此の映畫の材料を見ても日本にはまだ海外思想鼓吹の目的で作られてゐるものはいくらもない。又文部省あたりで作らせるものにも、この邊の考で拵らへさせてゐるものは殆んどまだ見ないのである。新聞や雜誌書物の上や又は講演の上もよろしい。けれども何といつても活動寫眞の力に及ぶものはないのである。これだけよい方法があるにも拘らず、殆んどそれを利用してゐないと云ふことは残念に思はれる次第である。

日本では人口問題、食糧問題に氣がついて來たが、まだ之を海外思想の宣傳について、いかにせば國外に粒のよい國民を吐かせ得るかといふことの研究が始まつてゐない。その海外についての思想の鼓吹は、たゞ單に海外が日本よりもよいといふことを知らせる計りでなく、海外に於ける幾多の困難な場合をもよく覺悟せしむること、これが亦必要である。海外の天地にしたところで一得一失のあることは勿論である。唯よい方面のみを呑み込ませ、他の半面の苦勞のあることを同時に覺悟させてゐないと

きは、多く折角の苦心折角の地盤が一朝にして覆へされるやうなことになる。この意味からいつて日本人の海外生活の態度は、西人に較ぶれば辛棒強い方ではあるが、しかし支那人に比べたならば遙かに彼等に及ばない。といふのは忍耐力の乏しいこと故國日本の風土のよい事を見出し懐かしみ、どうかすると歸心矢の如くなつて引揚げて歸つてしまふといふこと、それと今一つは平素、支那で云つて見ると、支那人との接觸感情上の問題の滑かに行つてゐないものが多く、心と心とのピッタリシツクリと合つてゐるものが少ないこと。これはいかに鼓吹して見たところで出来ない相談かもしれないが、十分一つもシツクリと合ふ處まで進めたいものである。シツクリ來なければ十分に嵌まらない。兎に角浮き腰になりがちのものである。

海外發展の必要や海外行きを説く時代は疾くに過ぎ去り、今日は從來の缺點を改めて着々實行の時代に來てゐるのである。そしてそれが實行には一度や二度の遭難挫折で屈してしまつてはならぬ。現に長江筋に見た此度の騒動にても、獨逸人は

長江沿岸から引揚げず依然としてそこでやつてゐた。その爲め平時の状態に復して來るとなれば、獨逸人が時こそ來たれと暗中飛躍をやつたお株を獲得することはないであらうかと噂されてゐる。日本の人口問題、食糧問題が將來避く可からざる問題であるとするれば、海外發展の大業は止むに止まれぬ國是によつてよほど我慢強く覺悟してかゝらなくてはならぬのである。これ迄通りの日本並みの淡泊なあつさりした考へ態度では、到底支那人からでも蹴落とされてしまつて、落伍者の位置に立たなくてはならぬことになりはしなはかと考へられるのである。

八十一 海外生活を好まざる日本の家庭

よほど脱俗した人間か、さもなければよほど變つた構はない人間か何かでなくては、海外生活を平氣でやるといふものはない。此の氣候風土のよい日本國に人となつたものゝ間からは中々のこと出ない。これは人情仕方のないことで、何れの國だつて郷

士ぐらゐる氣に入つてゐるものはないのである。それ故に異國情緒なるものはえらい寂しいもの、情けないもの、何の因果で支那三界までも、南洋三界までも落ちて行かなくてはならぬかといふものが居る。無理からぬ話である。いかにかちり付いても日本からは離れたくない。東京から去りたくないといふものが出て来る。そのいくら人口が殖えようがいくら食糧が乏しくならうが、中々隣邦へさして出て行かうとするものは少ないのである。

南洋はいかかといつて見ると、たゞあたまごなしに云ふことに、

- 一、やれ南洋は熱いのもとも堪へきれぬの
- 一、やれ文化が低いもの、行つたつて寂しくて仕方がありはしないの
- 一、病氣でもしようものなら困つてしまふの
- 一、子供の教育を犠牲にしなくてはならぬの
- 一、南洋へ落ちるほどに困つてもゐないのだ

一、南洋の華僑の眞似なんかはとも出来ぬ

かういつた理窟を並べて要するに出かけて見ようといふ氣分にならないことを告白してゐるのである。よし當人は止むに止まれぬ奮發心から決心をして見ても、當人の家族が承知せぬ。又里の方でよい顔をせぬ。花嫁をくれる筈の話も破談になつてしまふ。とてもどうもこうもならぬのである。これが今日の日本の海外問題についての實況なのである。

このような實況に關係なく、人口問題の方はどしどしと殖えて来て、年一年と急迫を告げて來てゐる。國民自分自身が心から出かけようと云つてゐないものを、國家の力で無理やりに追出すわけにもまゐらぬ。海外生活を好まぬ家庭を高壓的に無理やり出るといふわけにはいかない。實際子供の教育の將來を考へて見ても、或は周圍の環境の違つてゐる寂しさから同情して考へて見ても是非なきことである。随分十年二十年と何一つ不自由のない結構なよい生活を海外でなしつけ、故國の人々からも羨ま

れる位のものであつても、それでも矢張り日本がよい。日本の刺身で疊の上にならなくと、打くつろいで一パイ傾けても見たいと云ひ出す。さればたゞ思ふやうにならぬものがあとに残される丈で思ふ通りになるものはどん／＼と歸國してしまふ。これが多くの海外生活者の傾向になつてゐる。況していく度か、長沙、漢口、南京、九江、蕪湖、濟南あたりから引揚げた連中の中にも、此の考のものが相當に多いかと思はれるのである。

八十二 海上生活の趣味を解せざる日本人の旅行振り

海外生活を好まざる日本人の家庭につき、更に突込んで考へて見ると、日本人は海男子とか何とか體裁のよいことを唱へてゐるが第一最も卑近なことから、云つて見てもその日常の旅行にしたところで海上生活に親しまうといふ氣分に乏しい。船の旅行を避けたがる。近來心ある紳士淑女や心ある女學校の教員學生、中學校あたりで大分

つとめるやうになつて來たところもあることはあるが、全體としてはまだ甚だ少ない。日本の近海の沿岸の旅行はどの位、船にした方がらくで楽しいか知らん場合であつても、汽車の方をとらうとする。これは海上生活に興味をもたず、又船そのものを理解せず海上そのものに親しみを持たない爲めの結果であることは云ふを俟たないのである。

別莊道樂も結構ではあるが、天下到るところの山川風土を別莊とし、船で以て家族打つれ沖の鷗でも眺めながら萬里の波頭を蹴立て、水平線上をわが樂土として航海し白帆千鳥のかよふ鳥影を我が水庭と見て行く心の風懷は、どの位愉快なものであるか判らぬ。子弟が學校の教科書で學んだ地理や物理の學問も、海上の旅行でどの位實地にたしかめられるか判らぬのである。百聞一見に若かずの得がある。それはわかり切つてゐることであるが、しかし決行しようとしなない。これは何といつても日本人はまだ海上生活に興味を持たない。海をわが物としてゐない結果であると思はれる。

これは無理もないことで、日本は過去の歴史を顧て見ても日本には海上文學といふものは生れてゐない。全然ないわけではないが、英國や阿蘭陀、スカンデンネピア邊りに比べてはとても比較にならないのである。吾人の先祖は海についても船についても多くの趣味を有してゐなかつた。殊に徳川三百年間といふものは海外生活が禁止されてゐた事實さへあるのである。その理由のために、海上生活が著しく妨げられてゐたのである。今後はそうしてゐられなくなつたにも拘らず、今迄通りの感心しない傳統的の習慣と態度であるといふことは、甚だ解せない次第であるのである。

されば今日の日本の社會では今一層船の親しみ、船上の生活、船の旅行といったことの重大な意味のあることを知らしむると同時に、又日本人の旅行なども一層よく船を利用させるといふ氣運を作つて行かなくてはならぬのである。海をきらふ者はいかに鐵道に事故が生じ、汽車の大椿事があらうが必ず汽車旅行のみを續けてゐる。これではいづれの時にか船に親しみをもつやうなときが来るであらう。

今後は日本の家庭に於いてもつとめて、海上生活に興味をもたせるやうに努むることが肝腎であるが、之と同時に船の港に出入のときの手數面倒厄介なことは、なる可く除くやうにし改善すべきは改善し、又税關等の方面の不愉快な點も出来るだけ改善せしむるなど、その方面にも相當問題はあるのである。要するに各方面からして朝野の海上生活についての理解がついて、海の親しみが次第に深かみを加へて来るやうにならなくてはなるまいと思ふ。

八十三 不言實行の海外生活

支那人の偉いことは何でもよいと考へたことは、着々實行することである。決心したことであれば船は三等であらうが何等であらうがどこにでも我慢をして乗込み、なる丈經費をかけないやうにして自ら出かくる。そして海外生活についての我慢は實に強い。理屈をいはないで何年でも忍耐してやりぬく。そこに非常な底力を有してゐる

赤道直下の熱いところであらうが、たゞそこで腰を据えようと思つたら何年でも何代でもそこでやりぬく。南洋のやうな天地にしてもこゝでその

一、馬來が熱いの、スマトラが瘴癘の氣があるの

二、病氣にこはいの、風土病が恐ろしいの

三、骨の折れるわり合に儲けの少ないの

四、子供の教育が出来ないの

五、政府がバックになつて力を入れてくれないの

といつたやうなことは少しも云はない。何等不平をいはず倦まず屈せずどこまでもやりぬくのである。それで三十年かゝらうが五十年かゝらうが構はない。子の代孫の代になつても世襲的にやるつもりである。一度や二度排斥を受けようが、自身身代限りをしようが、又横濱東京の例にも見える通り根本的に震災でやつつけられても、それでも矢張り又とやり出す。そしてかれら全體としての結束は實に強く固く誠

によく團結をし忍耐をして、最後の勝利を得る處迄漕ぎつけるのである。そして人を批評することもしなければ、自分が批評されても少しも氣に止めない。そのやうなことにこだはらないで自分自身のことには一生懸命つとめる。その爲め南洋華僑に於いても、新嘉坡に於いても、カウラウボウに於いても、個人として一億萬弗以上の巨萬の富を有する華僑を輩出せしめてゐるわけである。

支那の華僑の心持ちでは、たとひその海外に出てゐても、そこを特にとり立てゝ外國の領土とは思はず、平氣で自國の如き氣持ちでゐられる。南洋に出かくればそこが自分共の天から興へられた土地であると考え居るらしく、すつかり腰をそこにおちつけて了ふ。その土地が買ひ取れるものなら買取つて自分のものにしてしまふ。安いときに早く目をつけて獲得しておく。日本人はそこへ行くとい獲千金をして早く日本へ引揚げるつもりであるから、土地を持たうなどは始めから考へてゐない。結局支那人に地代をとられ家賃も取られるといふことになるものが多い。かやうにし

て海外に出てゐてもその心掛がちがふのである。支那人は前にも云ふ通り植民政策の講義一時間も聞いたわけではなく、又植民論の一頁も讀んだわけでもない。それでゐて講義や本を讀んだ人以上のところを實行してゐる。特にその道の教養があるわけではなくて、而かも自らその道に叶つてゐることをなし遂げてゐるのである。そこに支那人の海外生活の底力が潜んでゐるのである。

お隣の支那終り

本書の参考となるべき同著者の著述

書名	定價	出版元
支那文化の研究	(5.50)	富山
支那の社會相	(5.50)	雄山閣
支那風俗の話	(2.80)	大阪屋
支那趣味の話	(3.00)	大阪屋
支那料理の前に	(1.80)	大阪屋
長城の彼方へ	(0.85)	大阪屋
支那文化の解剖	(3.50)	大阪屋
支那遊記	(3.50)	春陽堂
支那行脚記	(2.90)	萬里閣

支那綺談、阿片室	(2.50)	萬里閣
支那國民性講話	(1.00)	日本大學(巖翠堂)
支那今日の社會と文化	(1.00)	大日本文明協會
支那の田舎めぐり	(0.50)	北隆館
日本より支那へ	(0.50)	北隆館
歡樂の支那	(0.50)	北隆館
長久の支那	(0.50)	北隆館
不老長生	(0.50)	北隆館
老朋友	(0.50)	北隆館
創造の支那 (近刊)	(0.50)	北隆館
支那地圖	(1.20)	神谷書店
文字の研究	(4.50) (絶版)	成美堂

文字の沿革(一般)	(4.50)	日本大學(巖翠堂)
文字の沿革(建築)	(2.00) (絶版)	成美堂
漢字音の系統	(1.50) (絶版)	六合館
文字の教へ方	(1.50) (絶版)	二松堂
文字の訓練	(1.50) (絶版)	泰山房
明治の漢字	(1.50) (絶版)	寶文館
漢字の活用	(1.00) (絶版)	六合館
現代支那語學	(0.55) (絶版)	博文館
言語學(上下)	(1.10) (絶版)	博文館
線音双引、漢和大辭典	(2.70) (絶版)	東雲堂
標準字典	(2.20)	中文館
青龍刀	(近刊)	萬里閣

支那禮讚、五味八珍

(近刊)

萬里閣

支那著作餘香

情緒纏綿と云ふことは如何なる人間味本位の著作にも大事なことであるが別けて支那の社會、家庭、人情の機微を叙説した述作には一番必要なことである。然かしくら妙所を描寫し盡さうとしても鈍筆では到底お隣の支那に漲る支那らしい餘香すらも字面に表現させることは出来ぬ。もし眞に本書の参考となるべき餘香を求めんとするの篤志家は萬卷の書を手にするよりも百聞一見に若かずで北支なり南支なりの大體を自分で踏んで見るべきである。そして支那宿に二三泊でもして臭虫にチクチク噛まれて見なくては嘘である。お隣の支那を歐米旅行の延長の積りでゐるやうな旅行振りでは遂に何物も得ないですふであらうと思ふ。

昭和三年九月十日印刷
昭和三年九月十五日發行

お隣の支那
定價壹圓八拾錢

不許複製



發兌

著者 後藤朝太郎

發行者 濱井松之助

印刷者 小島爲吉

東京日本橋區數寄屋町

大阪屋號書店

東京 電話 三三三三
大阪 電話 三三三三
電話日本橋(24)
四三三三
五三三三
五九七五
番番番番

後藤朝太郎著

支那風俗の話

金貳圓八拾錢
送料金十八錢

同

(増補)支那趣味の話

金參
送料金十八錢

上田恭輔著

趣味の支那叢談

金貳圓五拾錢
送料金十八錢

北澤樂天
外七氏共著

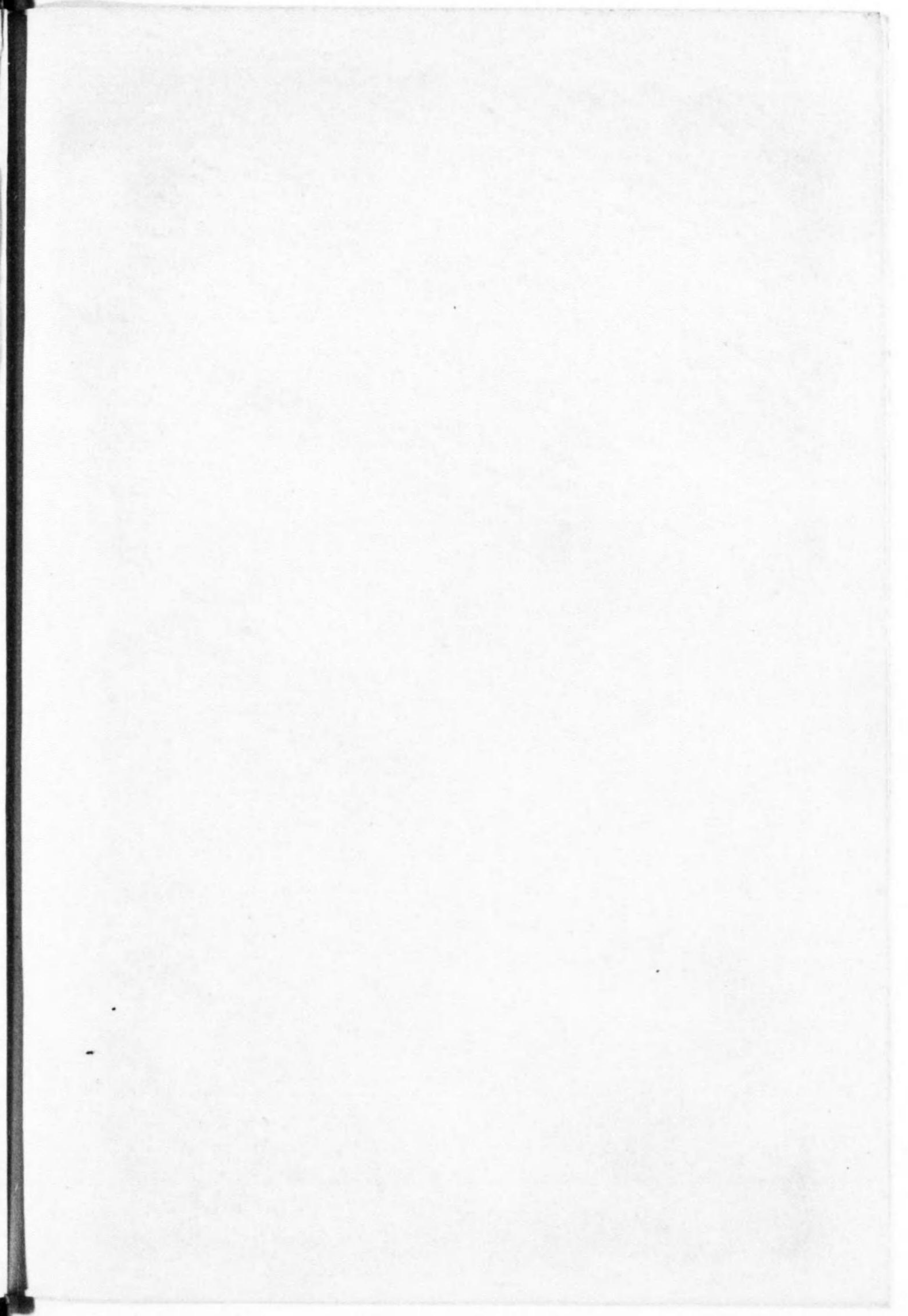
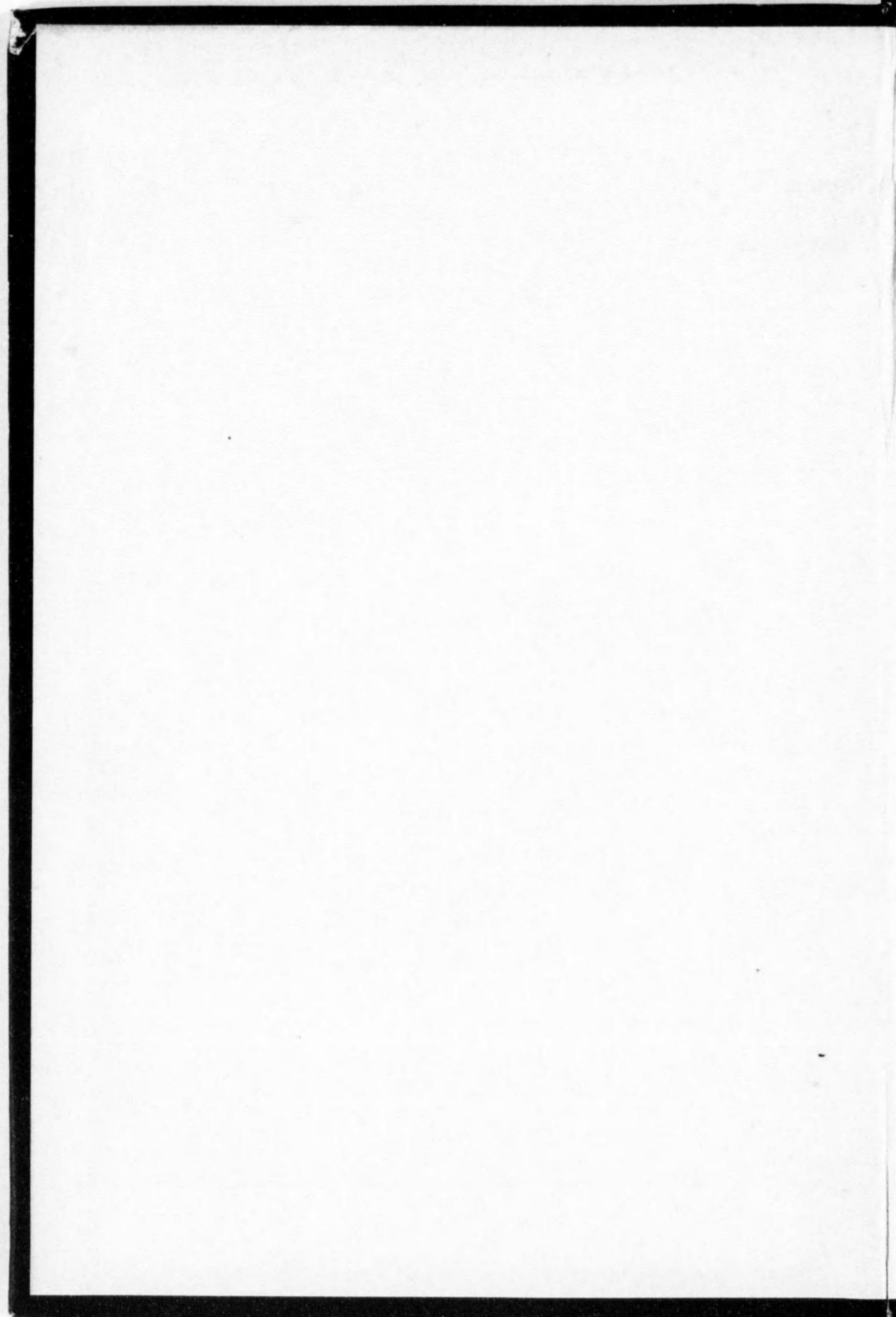
漫畫の滿洲

金貳
送料金十八錢

杉浦末郎著

麻雀必勝法

金壹
送料金六錢



終

